

11:10 祭司のうちでは、エホヤリブの子エダヤと、ヤキン、

11:11 ヒルキヤの子セラヤであった。ヒルキヤはメシュラムの子、メシュラムはツアドクの子、ツアドクはメラヨテの子、メラヨテはアヒトブの子である。セラヤは神の宮のつかさであった。

11:12 彼らの同族で宮の務めをする者は八百二十二人。また、エロハムの子アダヤ。エロハムはペラルヤの子、ペラルヤはアムツィの子、アムツィはゼカリヤの子、ゼカリヤはパシュフルの子、パシュフルはマルキヤの子である。

11:13 アダヤの同族で一族のかしらたちは二百四十二人。また、アザルエルの子アマシュサイ。アザルエルはアフザイの子、アフザイはメシレモテの子、メシレモテはイメルの子である。

11:14 彼らの同族の勇士たちは百二十八人。彼らの監督者はハゲドリムの子ザブディエルであった。

11:15 レビ人のうちでは、ハシュブの子シェマヤ。ハシュブはアズリカムの子、アズリカムはハシャブヤの子、ハシャブヤはブンニの子である。

11:16 また、レビ人のかしらのうちシャベタイとエホザバデは、神の宮の外まわりの仕事をつかさどっていた。

11:17 また、ミカの子マタンヤ。ミカはアサフの子のザブディの子である。マタンヤは祈りの時に感謝の歌を歌い始める指導者、バクブクヤはその同族の副指導者であった。また、シャムアの子アブダ。シャムアはエドトンの

子のガラルの子である。

11:18 聖なる都にいるレビ人は合計二百八十四人であった。

11:19 門衛では、アクブとタルモン、および門の見張りをする彼らの同族で、百七十二人であった。

11:20 そのほかのイスラエルの人々、祭司、レビ人たちは、ユダのすべての町で、それぞれ自分の相続地にいた。

11:21 宮のしもべたちはオフェルに住み、ツイハとギシュパは宮のしもべたちをつかさどっていた。

エルサレムは都であるゆえに敵の攻撃を受けやすく、重要であるゆえに危険でした。また耕作にも牧畜にも適さないところで、ここに住むのは人間的なまたは打算的なメリットはない場所です。しかし、主の都を守るため、その働きをするために、多くの人々が喜んでここに住むことを選んだのです。

神様は彼らの働きを具体的に記し、その勇気と献身を讃えました。私たちも同じで、主のために道を選び取る者は主に覚えられます。そして主の栄光と祝福をいただくこととなります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

